



相川

佐渡牛 実力発揮 ~ 春季高千家畜市場 ~

4月2日(日)恒例の高千家畜市場が北川内の会場で行われました。

この日上場したのは、雌子牛37頭、去勢子牛64頭など113頭。出足から好調でいきなり40万円台を突破し、生産者も興奮気味でした。結果は平均キログラム単価は、去勢子牛2,002円、前年比36円アップ、1頭あたりの平均価格534,975円、一方雌子牛は1,834円、前年比245円の大幅アップで久々の高値で今年最初の市場としては、好スタートでした。



なお、家畜市場前日、同会場で行われた春季子牛共進会では、雌子牛の部で梶井正弘さん(小田)所有のやすまさひめ3号、去勢子牛の部で山登忠男さん(岩谷口)所有の健蔵号がそれぞれ最優秀賞を受賞、団体賞では、小田チームが優勝しました。

小木

グラウンドゴルフ2大会が城山で開催

日本グラウンドゴルフ協会認定コース「小木城山公園グラウンドゴルフコース」において、4月2日に第18回新潟県スポーツフェスティバル佐渡地区大会と、4月16日に第13回小木地区ゴルフ大会が開催されました。

両大会共に、生涯健康スポーツとして親しみ深く取り組んでいる、金井地区と小木地区のチームにより、「楽しみ1番勝敗2番」の熱い戦いが繰り広げられました。県民スポーツ大会では、上位大会の参加を賭けて競い合い両地区チームが県大会へと進むこととなりました。内容もすばらしくホールインワンを決めた方が9名も出るなど、大会のレベルの高さを感じました。また、公民館事業として開催された小木地区大会では、プレーヤー年齢が熟年者の方が多い中、今大会には2名の小学生が参加していました。大会前には初心者講習会を開くなど、後継者の育成に取り組む様子が見え、ますます生涯健康スポーツ人口の拡大が期待できることを確信しました。



思いだしてJPGにしてください!!



チームがすばらしい!!結果は...

大会結果は、熟年者は堂々の結果で優勝に輝き、初心者は「初心者のスコア」の中にも、打ち方が上達する様子が見え、なじみ易いスポーツとしての印象を感じることができました。春雨の後緑が映える中桜の花を愛でながらの、すがすがしい大会となりました。

金井

市内小中学校の入学式が4月5日(水)に各学校で行われました。

金井吉井小学校では、15名が新入生として仲間入りし、新しい年度がスタートしました。

保護者の方に手を引かれ学校に入ると、6年生のお兄さん、お姉さんにリボンをつけてもらい教室に案内されていました。

入学式では、石川校長先生から「勉強するってどんなこと?」というお話があり、「自分でできることを増やすこと」など新しい生活の説明がされ、希望に目を輝かせていました。

佐渡市の新1年生の皆さん、健やかに元気で学校生活を楽しんでください。



相川の春はまつりとともに訪れる

4月11日(火)トップをきる大倉まつり ~ 春季高千家畜市場 ~

大倉のまつりはどちらかといえば、浜辺でのヤブサメ行事が有名ですが、これを警護する芸も貴重なものです。「箱馬」や「棒ふり」「豆まき」「薙刀(なぎなた)」など、相川まつりの古い姿を残していると言われています。

近年、少子高齢化が進み、集落の行事一つ行うにも年々大変な時代となってきました。ここ大倉もほかの集落と同様に過疎に悩み、一時期、射てとなる子どもがおらず、まつりを続けられないのではとの話もありました。

しかし、伝統を守るため、みんなががんばっています。15日には、高千地区一斉にまつり一色となりました。

各地の集落まつりが終われば、農家では一斉に田んぼに取りかかれます。



佐和田の春まつり

4月15日(土)は、佐渡の様々な地区でまつりが開催されました。佐和田地区でも白山神社、白山神社、金北山神社そして、高浜神社と4つの神社でまつりが行われ、五穀豊穡、家内安全、無病息災を願い、鬼太鼓、豆まきが舞われました。

白山神社、高浜神社では力強く勇壮な鬼が髪を振りみだし、太鼓の軽快な音にあわせながら町中を駆け回っていました。

白山神社、金北山神社では大勢の観衆の中、豆まきが行われました。翁が軽やかに舞い、2匹の獅子舞が続き、最後に鬼が勢いよくしめ縄を切ると、観衆から惜しみない拍手が送られていました。観光バスに乗っている観光客たちも、カメラで一瞬懸命に鬼たちの姿を収めていました。

晴天にも恵まれ、どっぴりとまつりの雰囲気になれる暖かな一日でした。



畑野の春まつり

祭りの季節となり、4月15日(土)には畑野地区でも9箇所で行われました。当日は、晴天にも恵まれ多くの人々が見物に集まっていました。

激しい太鼓のリズムと共に舞い踊る鬼の勇壮な姿が随所で見られ、集まった人々からは大きな歓声があがっていました。





羽茂 おいらん道中in桜まつりが開催されました

4月16日(日)羽茂地区で「おいらん道中in桜まつり」が開催されました。

羽茂太夫・桜太夫・五社太夫の艶やかな花魁たちが、舞妓や傘もち等の行列を引きつれ桜並木の下を練り歩きました。

特に羽茂中学校前では「外八文字歩き」という独特な歩き方で観客を魅了しました。



「羽茂太夫」山田 久美子さん(羽茂)
 「桜太夫」本間 正子さん(畑野)
 「五社太夫」柳 敬子さん(赤泊)

新穂 新穂フラワー農道推進事業



4月18日(火)に新穂小学校4~6年の児童53名と地元関係者、行政機関の総勢90名により、西部

地区1号幹線道路(通称:榊川道)沿いにヒガンバナの球根を植えました。

この事業は、「佐渡花の島プロジェクト」と連携し、新穂地内にある2キロあまりの直線道路を花でいっぱいにしてという取り組みで、昨秋のスイセンの植え付けに続き今回で2回目となります。

強風の中、参加者はスイセンの花に重ならないように注意しながら、約2500個の球根を1時間かけていねいに植えました。

これからは、春のスイセンと秋のヒガンバナがドライバーの目を楽しませてくれそうです。



真野 真野桜マラソン大会

4月16日(日)真野公園を会場に「第42回真野桜マラソン大会」と「第39回歩け歩け運動大会」が開催されました。

当日は、肌寒い天候にもかかわらず「マラソン大会」には市内各地から849人の市民ランナーが参加。また、「歩け歩け大会」には健康づくりに取り組む60人が参加し、それぞれに健脚を競い合いました。

沿道には「がんばれ!!」と声援を送る家族・友人やカメラを構えて熱心に写真におさめる姿など大勢の観客でにぎわっていました。



赤泊 伝統行事のひとつ「三川まつり」が行われました

4月16日、佐渡市の南部に位置する三川地区で、三川まつりが行われ神輿、大獅子、鬼太鼓が各家々を門付けして回り家内安全、五穀豊穡、無病息災を祈りました。

これは春日神社の祭礼で、下がり葉と呼ばれる子ども達の太鼓の演奏にあわせて神輿渡御の儀式が神社で行われ、参列者も伝統的な儀式を静かに見守っていました。



大獅子が、伊勢音頭や木遣りを歌いながら家の出入り口で頭を打ち鳴らすと、今度は鬼太鼓組がナギナタやマサカリを手にして「ヤーッ」という威勢のいい掛け声で玄関に切り込みます。庭先では、小学生の打ち子と呼ばれる小鬼らが頬に紅を塗りたすき姿でバチを手に、太鼓の力強いリズムに合わせて次々と踊り、その後、道祖(ろうそう)が口上を述べると「そらやれ、そらやれ」の掛け声が飛ぶ中、大人の鬼が勇壮な舞いを順次披露していました。

一通り終わると、訪れた家では一行を祭りご馳走で迎えます。飲み物やご馳走をいただいて元気になった一行は次の家に向かいます。



両津 佐渡の歌舞伎を守っていききたい (片野尾歌舞伎保存会定期公演)



4月23日(日)、片野尾歌舞伎保存会による定期公演が片野尾小学校体育館で開催されました。

この定期公演は隔年で開催されており、今年で15回目を迎えた今回の公演は、歌舞伎のほか、民謡や現代劇、舞踊が披露されました。

特に、歌舞伎では「奥州安達ヶ原三段目～袖萩祭文の段～」という演目で、今から約930年前の平安時代後半の武将である源義家と安部貞任・宗任兄弟との争いや、貞任の妻である袖萩という盲目の女性の数奇な運命について演じられました。



会場を訪れた人々は、歌舞伎独特の表現や演者の熱のこもった演技に魅了され、会場では大喝采とともに惜しめない拍手が沸き起こっていました。

新穂 春を満喫! 新穂ダム桜まつり



4月23日(日)に2,000本の桜と、湖上を泳ぐ150匹の鯉のぼりでおなじみの新穂ダム桜まつりが開催されました。



会場では、フリーマーケットで掘り出し物を探す人やおつまみ・飲み物を買って求める人で賑わい、佐渡牛の試食と販売が行われた佐渡牛肉祭りには多くのお客さんが並び、用意した100キロあまりの牛肉が30分でなくなる盛況ぶりでした。

同時に芸能鑑賞会も行われ、島内各地から訪れた5千人を超える観客は満開の桜の下で春の1日を満喫したようです。

構造改革特区とは、特定地域特区に限定してその地域の特性に注目した規制改革を実施するものですが、全国一律の規制改革がなかなか進まない分野について、地域を限った形で規制改革を進め、その地域の活性化を図り、成功した事例を全国的に広げることにより、国全体の経済活性化を図ることが目的とされています。

今回は佐渡でも、初めて「濁酒特区」が認定され、片野尾の農家民宿経営者の小田さんが「濁酒」製造の準備を進めています。農家民宿とあわせて、佐渡の新しい名物ができるものと期待しています。

当日は全国137地区からの関係市町村長が認定を受けて、小泉首相と記念撮影が行われた後、官邸内で懇親会が開催されました。その席で、久しぶりに安倍官房長官にお会いすることができ、拉致問題の対応に大変だった頃の話に花が咲きました。当時曾我さんを訪ねて、佐渡へ来られた頃に比べ、今の安倍さんは少し太り気味で賞禄もついでいました。



写真向かって 下段右側より、山谷内閣府大臣政務官、小泉首相、長勢内閣官房副長官、鈴木内閣官房副長官
上段右側より、米田糸魚川市長、高野佐渡市長、長谷川阿賀町長

ゆや夢飛行 市長随想 No.1
佐渡市長 高野宏一郎

4月18日、内閣府主催により官邸で小泉内閣総理大臣からじきに構造改革特別区域計画認定書「佐渡トキめき濁酒特区」の認定を受けました。

特区の中には、大半の授業を外国人、日本人各1名の教員が英語で行う新しい小中高一貫教育の学校を作るといって、太田市外国語教育特区や、企業が町内の遊休農地を利用してオリーブを栽培し、栽培から加工までを一体的に行って新しいビジネスを起こすという「小豆島・内海町オリーブ振興特区」など、特色あるものが認定されています。

